月刊 まち・コミ 2011年2月号

● インフォメーション ●http://park15.wakwak.com/~m-comi/

● 今月の注目記事 ● P1 ～P3 曹洞宗と御蔵の関わり ～震災当時を振り返って～

曹洞宗と御蔵の関わり

～震災当時を振り返って～

１月１７日も御蔵北公園にて、曹洞宗、真言宗、臨済宗の僧侶の方々が、遠くは宮城県や熊本県からお越し下さり、仏式無宗派による法要が行われました。午前は元全国曹洞宗青年会幹部の方々、午後は兵庫県第二宗務所青年会の方々が先導してくださいます。今年は１７ 回忌ということもあり、例年に増して大勢の方がお越しくださいました。

慰霊法要は一周忌から毎年欠かさず行われてきました。朝５ 時４６ 分の法要は、曹洞宗の修行時代に曹洞宗国際ボランティア会（現在はシャンティ国際ボランティア会、以下ＳＶＡ）のボランティアとして神戸に来られ、後にＳＶＡの職員になられた藤井隆英師の呼びかけで、近所の方やボランティア仲間が集まって拝みました。慰霊碑の周りにろうそくを並べる、現在の形の法要が始まったのは７回忌から。実行委員会の主催として始められ、現在は自治会が主催で行っています。

この御菅地区はこれまで、曹洞宗の方々によるご厚意に支えられてきました。今回の「月刊まち・コミ」では、曹洞宗の方々と御蔵地区の関わりを、震災当初を中心に振り返ります。

▲今年の慰霊法要の様子

▲一周忌の様子

●炊き出しから始まった

阪神・淡路大震災が起こり、全国から被災地に駆けつけたボランティアの中に、曹洞宗の方々の姿もありました。全国曹洞宗青年会とＳＶＡと曹洞宗両大本山の三者で神戸での救援対策本部を結成し連携を取りながら、避難所となった小学校での炊き出しなど、救援活動に取り組まれました。僧侶の方々と、ＳＶＡの呼びかけで集まった学生や社会人のボランティアが、１０カ所程度に分かれて協力し合いながら炊き出しをしたそうです。

曹洞宗の修行の一つに、食事を作る行「典座（てんぞ）」があり、兵庫県丹波市の観音寺住職の平岩浩文師によると「数人で大量の料理を作ることは慣れているので、大したことではないですよ」とのこと。また、佐賀県など九州地区の方々は、雲仙普賢岳噴火の際に救援活動に駆けつけた経験があったので、食材やプロパンガスの準備が早く、すぐに支援に駆けつけたそうです。

９５年４月７・８日には、全国曹洞宗青年会の主催で、犠牲者の供養と地元の一日も早い復興を願って「花まつり」を開催しました。会場となった菅原市場は仮設店舗で営業を始めており、大勢の人が集まりにぎわいました。

９５年１０月１日には同じく菅原市場で、ＳＶＡ主催の「アジア秋祭り」が行われるなど、その後もイベントが企画され、地域を離れざるを得なくなった人々が、再び集い交流する機会となりました。

●ＳＶＡの事務所移転

今から３０年前、カンボジア難民キャンプで子どもたちに絵本を届ける活動からスタートしたＳＶＡは、阪神・淡路大震災において緊急救援活動を震災後２日目から開始し、２年半に亘って被災地を支援されました。国内でのボランティア活動は、阪神・淡路大震災の支援が一番最初だったそうです。

ＳＶＡは東京に本部があり、神戸での支援を行う際の活動拠点を、最初は八王寺の研修道場、次に真光寺の境内に置いていました。９５年６月下旬、次の事務所を置く場所を探していたＳＶＡは株式会社兵庫商会の田中社長を訪ね、依頼したそうです。兵庫商会の土地にはすでに、ピースボートの仮設プレハブ事務所があり、田中社長は「曹洞宗が母体のボランティアグループなら」ということで、了解したそうです。ＳＶＡのコンテナ事務所は８月に完成。このことがきっかけで、曹洞宗の方々と御蔵の関わりが深まっていきます。

●法話・写経の会

震災直後、兵庫区にある神戸市立明親小学校で炊き出しをしていた九州地区からのメンバーに、熊本県天草市にある地蔵院の荒木正昭師もおられました。

荒木師は９５年の夏、テレビ番組で明親小学校を目にして気になり、その年の９月お見舞いに来られます。それをきっかけに、毎月１回１２月まで、癒しを求める被災者にお話しをするため、明親地区に通われます。最後の回となる１２月に、株式会社兵庫商会の田中保三社長と御蔵地区の人が来ていて、１月から長田で話をしてほし

▲法話と写経の会

いと請われ、その後毎月、御蔵にあるＳＶＡのプレハブ事務所などで、藤井隆英師と共に、座禅、法話や写経、般若心経の解説をしていただきました。多い時は２０数人、少ない時は５、６人しか参加者がいない時もありましたが「来るモン(人)は来る、来んモンは来ん」「執着しない」という温かいお言葉をいただき、住民やボランティアは心穏やかな時間を過ごしました。これまで、法話だけでも３０回程、慰霊法要や歳末の托鉢を含めると４０回以上、天草から神戸に通ってくださっています。「田中社長がＳＶＡの為に場所を提供してくださいました。では自分は地域のために何ができるのだろうと考えたのです」と荒木師。

●御菅地区合同慰霊法要

１９９６年１月には、一周忌慰霊祭を菅原市場跡で開催。参列者は約２０００人、僧侶が１２０人以上という、大規模な法要となりました。また、献花代など慰霊祭の運営費用をまかなうため、お寺にあるタオルや石けんなどの品物を集め、法要市（バザー）を開催してくださいました。一袋１０００円の福袋は、生活用品が足りない時期だったこともあり、大盛況だったそうです。また、ＳＶＡがつなぎ役となり、下関ふぐ連盟が「ふく鍋」を５０００食分用意してくださいました。

▲ふく鍋の炊き出し

震災当時のつながりで、今でも法要を続けてくださっています。「普段、僧侶はお布施をいただいてお経を読むわけですが、１月１７日の慰霊法要に関してだけは、気持ちでお経が読める人だけが集まっています」と平岩師。現在法要を執り行ってくださっている方の中には、震災当時のメンバーではない方も含まれておりますが、気持ちをつないでくださっています。御菅地区で無くなった方々のお位牌は、丹波の平岩師の元に預けており、毎日お経をあげてくださっています。

多くの方の気持ちに支えられ、毎年慰霊法要を執り行うことができています。ありがとうございます。

参考文献

○シャンティブックレットシリーズ１
『被災地に学ぶ「まち」の未来ー阪神淡路大震災とまちづくり支援の歩みー』曹洞宗国際ボランティア会（ＳＶＡ）発行

○シャンティブックレットシリーズ２
『混沌からの出発－ＳＶＡ阪神・淡路大震災救援活動の歩みー』社団法人シャンティ国際ボランティア会（ＳＶＡ）発行

追記：ＳＶＡは今年、曹洞宗国際ボランティア会発足から３０周年を迎えるそうです。
ＳＶＡホームページ　http://sva.or.jp/

▲法要市

みくらエッセイ

元気をもらうための被災地めぐり

室崎益輝

１年のうちで、誰にも邪魔されずに自分の意志で過ごせる時間帯が、唯一ある。１月17日の午前５時から午後５時の間である。この時間帯だけは、入学試験の監督が当たろうと、教え子の結婚式があろうと、すべてお断りをすることにしている。無論、テレビやラジオに出演することもあり得ない。震災の日のこの時だけは、私自身の「心の洗濯」をするために、阪神・淡路大震災の被災地をゆっくりと歩くことにしているからである。

歩く場所や行き先は年によって異なるが、御蔵北公園を出発点にして、水笠通公園から大国公園、そして大正筋商店街から松本地区へというのが、一般的なルートとなっている。これらの地区は、震災時の火災で焼土と化したところである。火災によって、家財はいうに及ばず、多数の命が失われてしまった。阪神・淡路大震災では「もし」という言葉は禁句ではあるけれど、火災の専門家として「もし、震災前に行政にもっと強く火災対策の強化を進言していたら」という思いが、1月のその時を迎えるたびに私の心を騒がせる。罪悪感と使命感が複雑に入り混じった心の騒ぎである。この避けられない心の騒ぎを、専門家として生きてゆくうえでのエネルギーに変えなければと、被災地をめぐりながら言い聞かせている。この被災地めぐりは、最初は贖罪のための行脚であったが、最近は鼓舞のための行脚になっている。鼓舞というのは、2度と同じような大火を繰り返さないように、防災と社会のシステムを変えるという私の「不退転の決意」を、奮い立たせるということである。

気持ちを奮い立たせるということでは、近頃私はとても元気になっている。元気といっても、体力的なものではなく精神的なものではあるが…。「室崎さんは最近、こと火災対策については、攻撃的になっている」と言われている。というのも、震災後16年を経過してようやく、大火を克服する道が開けてきたからである。通電火災対策として密集地域に感震ブレーカーを設置する、消防水利対策としてゲルを混入した消火液を活用する、初期消火対策として市民消防隊の組織をはかる、といった対策が現実のものとなりつつある。私の眼の黒いうちに、何とかこの大火対策だけは解決しておきたい、と思っている。

ところで私を元気にしてくれるのは、上述の火災対策の進展だけではない。私が希望を持ち元気になるのは、私の身の回りに一生懸命に防災に取り組む「若者」がたくさんいるからである。最近になって被災地歩きに、若者予備軍である学生たちがついてきてくれるようになった。安全な社会を作りたいという気持ちの共有化がその中で出来ているようで、とても嬉しく思っている。それに加えて、被災地の中で頑張ってくれている筋金入りの若者の存在が、私に大きな力を与えてくれている。被災地めぐりは、この若者との出会いの機会も与えてくれるので、楽しい。

若者といっても、私から見ればということで、30代あるいは40代の中堅選手として活躍している。震災時に駆けつけてくれた若者が、いまなお復興を担ってくれている姿は、とても頼もしい。私も、こうした若者に負けずに、もう少し頑張らねばと思っている。

○プロフィール○
むろさきよしてる　関西学院大学災害復興制度研究所所長

まち・コミnews

陳舜臣先生とご家族が
台日交流古民家移築事業の古民家　一滴水紀念館訪問

11月5日、小雨降る中、陳舜臣先生が妻未知さん、長男立人さんと共に、台湾の一滴水紀念館まで来て下さいました。邱明民さん（台湾側移築コーディネーター）説明の元、陳舜臣文庫を始め、移築された古民家を見学されました。また翌日は、陳舜臣先生の朋友であり、司馬遼太郎さんの台湾紀行に出てくる、何既明先生や、老台北こと蔡焜燦先生が会合に招いて下さり、彼らの人生の経験からの、日本の歴史・文化等のお話をしてくださりました。

★3月29日（火）に、一滴水紀念館のある台湾淡水鎮の和平公園園区の工事が完成を祝う式典が行われます。待ちに待った正式オープンです。「日本側の皆様も、是非来てください」と、お声かけくださっています。
ご希望の方は、まち・コミ（電話：078-578-1100か、メール：m-comi@bj.wakwak.com）まで、お問い合わせくださいませ。

陳先生ご夫妻と、古民家前で記念撮影→

大地のつぶやき

〜台湾での邂逅（Ⅱ）〜

十一月四日に訪台した宮定君と私は、邱さんを交え、翌五日昼過ぎ台北空港に陳舜臣ご夫妻とご長男の立人さんを迎えた。陳さんの弟さんやご親族の方も出迎えに来られていた。簡単にご挨拶をした後、淡水に向かった。古民家では何既明さんが待っておられた。長身痩躯で親しみやすく、気軽に日本語で声を掛けていただいた。「立派な建物が出来ましたね。ありがとう」と。司馬遼さんの台湾紀行で語られる何既明さんは、生家は台湾でも有数の米問屋で蔵が沢山並んでいた。一説にその蔵を一つずつ売って、もういくらも残っていない。売ったのは何さんの侠気によると記してある。また学生時代の李登輝さんも秘密警察に睨まれ（戦時中内地留学生は該当したらしい）不審る李登輝さんを自宅の米蔵に匿い秘密警察の空騒ぎが静まるまで食事を運んだともいわれています。

完成した古民家の中を車椅子の陳舜臣さんと何既明さんを案内する。陳さんからは「よく台湾に古民家移築が出来たものだ」と誉めていただいた。「日台の若者の力です」と答えた。外回りも一周され、別れ際に何既明さんから「明日陳さんが泊まっているホテルで昼食をご一緒しましょう。皆さん一緒に来て下さい。他に誘う人がいる様ならどうぞ遠慮なく」と誘われた。翌日昼過ぎに会場に行った。何既明さんご夫妻、それに老台北こと蔡焜燦さんご夫妻、陳さんご夫妻、立人さん等々でテーブルを囲んだ。何さんご夫妻と蔡さんご夫妻が日本時代の唱歌を合唱された。蔡さんの奥さんが元音楽の先生で発声から違っていて聞き惚れてしまった。また何さんと蔡さんの腹蔵のない日本語で丁丁発止のやりとりにヒヤヒヤするのだが一方陳舜臣さんはニコニコ見守っておられる。人の人たるゆえんは人と人の結びつきにあるといわれるが艱難辛苦を共にし、熱い友情で結ばれたこの光景は人としての豊かさがにじみ出ていてなんともうらやましく、同席出来た感激は一生の思い出になる。

株式会社兵庫商会　田中保三

まち･コミ活動報告　12/28～1/31

12/28 震災体験学習下見
12/28 月刊まち・コミ印刷
12/29 出石やすらぎ市民農園
もちつき参加
12/29 月刊まち・コミ発送作業
1/5　まち・コミ仕事始め
1/7　読売新聞
「大地のつぶやき」取材
1/8　NHK ラジオ深夜便に出演
(田中)
1/8　神戸松蔭女子学院大学で
講演(田中)
1/9　こうべｉウォーク
炊き出し協力
1/13　神戸大学生による
語り部調査受入
1/13　慰霊法要お接待打合せ
1/15　阪神大震災を記録
しつづける会の集い出席
1/17　慰霊法要
1/19　越前竹人形
静永鮮子さん来訪
1/19　麒麟の会(陳舜臣文庫)
打合せ
1/23　岸和田市大芝地区にて
講演(田中)
1/26　ニューオリンズ視察･交流
(宮定、2/9 まで)
1/29　宮崎・生目台地区視察
(田中)
1/30　宮崎県防災士養成研修にて
講演(田中)

ご支援、ありがとうございます。　12/25～1/20

●賛助会員(新規･継続)●
山岡義典(東京都)　服部光晴(奈良県)　橋本渉一(兵庫県)　和田幹司(兵庫県)　斉藤賢次(兵庫県)
寿松木宏毅(秋田県)　佐藤美姿(埼玉県)　高井秀樹(兵庫県)　福岡峻治(東京都)　中尾嘉孝(兵庫県)
西村内張商会(兵庫県)　西村光弘(福井県)　清水紀男(東京都)　福留邦洋(新潟県)　梅田和江(埼玉県)
中林浩(兵庫県)　青田良介(兵庫県)　大久保裕晴(大阪府)　縄田房照(福岡県)　玉井清山(長野県)
佐藤麗司朗(東京都)　株式会社山田工務店(兵庫県)

●寄付●澤田修一郎(京都府)　角野稔(大阪府)　日本興亜損害保険株式会社おもいやり倶楽部(東京都)

●協力●社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都)　株式会社兵庫商会(兵庫県)　【順不同･敬称略】

新規賛助会員募集＆更新のお願い

まち･コミでは、さらに活発に活動を行うため、賛助会員を募集し、金銭面でのご支援をいただいています。会費は、事業推進のために活用させていただきます。賛助会員のみなさまには、会員特典をご用意しておりますので、ぜひ賛助会員への登録をお願いいたします。

また、賛助会員は１年更新とさせていただいています。現在賛助会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。(期限は、「月刊まち・コミ」郵送時の封筒の、宛名の下に記載していますので、ご確認ください。)

年会費
個人・法人　年間５０００円
学生　　年間３０００円
郵便振替口座番号
００９５０－３－４２７８８
口座名称
「まち・コミュニケーション事務局」

会員特典

◆本誌「月刊まち・コミ」の送付。
◆まち・コミュニケーションに関する、Ｅメールでの情報送付、WEB の特別ページの参照

よろしくおねがいいたします。

■編集後記　ホームページ「震災発」の「コラム」のコーナーに、まち・コミレポートが掲載されています。ありがとうございます。(戸)
http://kobe117.ciao.jp/

2011年2月1日発行
編集／発行　まち･コミュニケーション
定価　１００円
御蔵事務所　〒653-0014
神戸市長田区御蔵通5-5
TEL　078-578-1100／FAX　078-576-7961
東京事務所　〒162-0052
東京都新宿区戸山1-24-1
早稲田大学文学部浦野研究室内
神奈川事務所　〒214-8580
神奈川県川崎市多摩区東三田２丁目1-1
専修大学文学部大矢根研究室内
e-mail　m-comi@bj.wakwak.com
URL　http://park15.wakwak.com/~m-comi/